

厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）
分担研究報告書

保健師のICT及び保健師活動マネジメントスキル向上プログラムの開発

研究分担者	杉山大典	慶應義塾大学看護医療学部	教授
	赤塚永貴	横浜市立大学医学部看護学科	助教
研究協力者	田口敦子	慶應義塾大学看護医療学部	教授
	宮川祥子	慶應義塾大学看護医療学部	准教授
	加藤由希子	慶應義塾大学看護医療学部	助教
	吉田裕美	慶應義塾大学看護医療学部	特任助教

研究要旨

行政のデジタルトランスフォーメーション推進により、地方自治体における Information and Communication Technology (ICT) の活用およびデジタル化が急速に進められている。保健師活動においても、ICT やデジタル技術の活用により、保健師活動の見える化及び PDCA サイクル（計画・実施・評価・改善のプロセス）を推進し、保健師によるデータに基づいた効果的かつ良質な実践を促すことが期待されている。そこで本研究班では、令和 4～5 年度に統括保健師を対象とした全国調査や先進的な ICT 活用・デジタル化の取り組みを行う自治体へのヒアリング調査を実施し、保健師活動における ICT 活用及びデジタル化の取組状況や課題、保健師の ICT やデジタル技術を活用する能力の実態等を把握した。それらの調査結果を踏まえ、令和 6 年度は、保健師向けの教育プログラム「保健師の ICT 及び保健師活動マネジメントスキル向上プログラム」を作成し、複数自治体で試行した。作成した「保健師の ICT 及び保健師活動マネジメントスキル向上プログラム」は、参加者を対象とした事後アンケートにおいて、研修の内容に「満足」との回答が 92.0%、研修の内容が「役立つ」との回答が 94.2%との結果であり、一定の有用性が確認された。今後は、本プログラムの効果検証や対象自治体の拡大等が課題である。

A. 研究目的

2021 年にデジタル庁が新設され、地方自治体行政における ICT (Information and Communication Technology: 情報通信技術) 活用やデジタル化が急速に進められており、地方自治体の保健師活動においても ICT 活用やデジタル化の推進が求められている。保健師活動における ICT 活用及びデジタル化推進の利点の一つには、保健師活動に関わるデジタルデータの生産・蓄積につながる点がある。その生産・蓄積されたデータの分析・評価に活用することにより、保健師活動の見える化及び PDCA サイクル（計画・実施・評価・改善のプロセス）を推進し、保健師によるデータに基づいた効果的かつ良質な実践を促すことが期待される。

本研究班による統括保健師を対象とした全国調査では、ICT 活用を進める上での課題として「保健師に ICT 活用に取り組む知識やスキルが不足している」、「ICT 活用に必要な人材育成の仕方が分からない」について約 8 割が課題ありと回答した¹⁾。先行研究では、保健医療分野における ICT 活用やデジタル化が進まない最大の原因として、医療専門職の知識やスキル不足が指摘されており^{2) 3)}、それらの向上にむけた根拠に基づく教育プ

ログラムや人材育成の体制整備が重要である。しかし、行政保健師を対象とした教育プログラムや人材育成の手法は未確立である。

そこで本研究では、研究 2 で開発する「保健師活動マネジメントツール」の自治体への普及・実装を見据え、保健師活動における ICT の活用にもつた教育プログラム「保健師の ICT およびマネジメントスキル向上プログラム」を作成の上、自治体保健師を対象に試行し、その有用性を評価するとともに改善点を明らかにすることを目的とした。

B. 研究方法

1. プログラムの作成

まず、プログラムの目標を①保健師活動への ICT 活用を推進するために必要な基礎的な知識・マインドセットを習得できる、②保健師活動に ICT を活用する意義を理解できる、③保健師活動における ICT 活用のアイデアを発想できる、と設定した。

次に、プログラム作成の準備として、本テーマに関わる国内外文献のレビュー^{4) 5)}および既存の類似研修プログラム等の調査を実施し、保健師活動における ICT 活用やデジタル化推進に向けた人材

育成や研修プログラムの動向を整理した。加えて、2023 年度に実施した全国調査¹⁾ およびヒアリング調査の結果⁶⁾ について、不足している知識やスキル、人材育成の観点から集計・分析した。

続いて、本研究班の地域看護学を専門とする研究者 4 名によるワーキンググループを結成し、上記の文献レビュー、既存の研修プログラム、全国調査の結果を踏まえながら検討し、プログラム・コンテンツ（表 1）を作成した。プログラム・コンテンツは、プログラムのテーマおよび対応する具体的なコンテンツによって構成した。各テーマおよび対応する具体的なコンテンツについて説明する。テーマⅠ「研修の趣旨・目的」のコンテンツは同内容に関する講義であり、各自治体における研修実施の趣旨や目的、要望等に応じて調整した。テーマⅡ「ICT 活用の基礎知識」のコンテンツは、同内容に関する講義であり、研修テーマに関わる基本的な用語の概念や定義、具体例の説明を通して、ICT 活用に関する基礎的な知識の習得をねらった。テーマⅢ「行政 DX の動向」のコンテンツは講義であり、①行政における DX・ICT 活用の動向、②2023 年保健師活動における ICT 活用・デジタル化の全国調査結果、の 2 つを盛り込んだ。ここでは、保健師活動に ICT を活用することへの関心や意欲を高め、活用に向けたマインドセットを醸成することをねらった。テーマⅣ「保健師活動における ICT 活用」は、①2023 年に実施した保健師活動における ICT 活用の先進的自治体へのヒアリング調査の結果に関する講義をコンテンツとした。また、テーマⅤ「保健師活動に ICT を活用するアイデアを考えよう」のコンテンツはグループワークとした。グループワークの内容は、現状及び課題分析と課題に対するソリューションの提案を一体的に実施する手法である As is/To be 分析を参考に、ステップ 1「保健師活動の現状と理想の状態の明確化」、ステップ 2「現状と理想の状態とのギャップとその原因の明確化」、ステップ 3「ギャップ解消に向けた ICT 活用アイデアの立案」の段階で構成した。なお、プログラム・コンテンツの検討に当たっては、開発したプログラムの自治体への普及の観点から、研究者が研修に参加しない場合であっても、自治体の担当者による実施ができるよう留意した。

2. プログラムの実施および評価

（1）プログラムの実施

研修の対象は、保健師活動における ICT 活用をテーマとした研修について、本研究班に依頼した自治体の保健師および保健医療福祉専門職とした。研修の内容は、作成したプログラム・コンテンツを基に、研究者及び自治体の研修担当者との協議により、各自治体の意向や実施体制等を踏まえつつ調整した。

（2）プログラムの評価

1) 評価方法

研修参加者に事後アンケート調査を実施した。調査項目は、基本属性、研修の満足度、研修の役立ち度、研修への要望である。

i. 基本属性

対象者の年代、職種、職位を尋ねた。

ii. 研修の満足度

研修の満足度について、「満足である」、「まあ満足である」、「どちらともいえない」、「あまり満足ではない」、「満足でない」の 5 件法で尋ねた。

iii. 研修の役立ち度

研修の役立ち度について、「役立つと思う」、「まあ役立つと思う」、「どちらともいえない」、「あまり役立たないと思う」、「役立たないと思う」の 5 件法で尋ねた。また、研修で特に役立つと思う内容について自由記述を求めた。

iv. 研修への要望

研修への要望について、自由記述を求めた。

2) 分析方法

基本属性、研修の満足度、研修の役立ち度について、記述統計を算出した。研修で特に役立つと思う内容や研修への要望に関する自由記述については、各記述内容を比較しながら、共通する内容ごとに整理した。

（倫理的配慮）

事後アンケートは無記名自記式調査であり、回答は統計的に処理され、個人や所属が特定されることはないことを紙面及び口頭で伝えた。また、アンケートへの回答は自由意志であることを口頭で伝え、強制力が働かないよう留意した。

C. 研究結果

1. 研修プログラムの実施状況

研修プログラムは、4 つの都道府県における行政保健師の職能団体を対象に、実施した。研修プログラムは各団体あたり 1 回、1 時間 30 分程度行った。研修プログラムには計 245 名が参加した。

2. アンケート回答者の基本属性（表 2）

研修プログラム参加者のうち、アンケートに回答した者は 237 人であった（回答率 96.7%）。アンケート回答者の年代は 40 代が最も多く 75 名（31.6%）、続いて 20 代が 65 名（27.4%）、30 代が 55 名（23.2%）であった。職種は、保健師が 234 名で 98.7% を占めた。職位は、主事級が最も多く 92 名（39.3%）、次いで主任級 67 名（28.6%）、係長級 46 名（19.7%）であった。

3. 研修プログラムの満足度・役立ち度

研修内容の満足度について、「満足である」、「まあ満足である」と回答した者は 92.0% であった。

また、研修内容の役立ち度について、「役立つと思う」、「まあ役立つと思う」と回答した者が94.2%であった（表3）。

研修で特に役立つと思う内容について、「基本から学ぶことができてよかった」、「苦手意識があったが、ICTを活用するメリットを知ることができ、興味がわいた」といったICTやDXに関する知識の習得に関する内容や、「“専門性を発揮するため”という視点から、ICT活用を考えるきっかけになった」、「ICTありきではなく、保健師が仕事をしやすくしていくことが必要と思った」といった保健師活動にICTを活用する意義の理解に関する内容、「他自治体の取組から、ICT活用の具体的な工夫や方法を知ることができた」、「成功した先駆的事例について学べたことがとても役に立つと思う」といったICT活用の先駆的取組への理解に関する内容、「何がICT活用の足かせとなっているのか、推進させているのかを可視化できてよかった」、「ICT活用は、保健師だけでは難しく、庁内の協力体制が不可欠だと思った」といったICT活用を進める上での課題の理解に関する内容等があがった（表4）。

4. 研修への要望

研修への要望として、「好事例の取組の詳細について教えてほしい」、「保健師が先進的取組にどのように関与したかを知りたい」などICT活用に関する先進的取組の事例に関する内容、「ICT活用のために具体的に何をすればいいのか知りたかった」、「ICT活用を進める上で、財政にどのように理解してもらったのか知りたい」などICT活用推進の具体的な手順や方法に関する内容、「DX化に向けた注意点について詳しく知りたかった」、「セキュリティの問題にどう対応していくか知りたい」といったICT活用を推進する上での注意点・必要な配慮に関する内容、「記録の即時入力を取り入れるための工夫・助言が聞きたい」、「デジタル記録における標準化や意義を知りたい」など保健師記録のデジタル化に関する内容、「データの分析方法やデータ活用について知りたい」、「データ分析を見据えた業務の行い方について学びたい」などデータ分析に関する内容があがった（表5）。

D. 考察

1. 研修プログラムの有用性

本研修プログラムの事後に実施したアンケート調査では、満足度・役立ち度のいずれにおいても、回答者の9割以上が肯定的な評価を示した。また、自由記述の内容からは、ICTやDXに関する知識の習得や、保健師活動へのICTの活用意義の理解に特に資する内容であったとの評価が得られており、目標①、②に対応する研修内容であったと考える。加えて、ICT活用の先駆的な取組に関する理解や、ICT活用を推進する上での課題に関する理解にも寄与し

たとの意見があり、目標③に関連した保健師活動におけるICT活用のアイデアを発想するために必要な手法や視点の習得に資する内容であったと評価できる。以上のことから、本研修プログラムの内容は、保健師活動におけるICT活用を推進する上で、有用なものであったと考えられた。

2. 研修プログラムの今後の改善点

アンケートの自由記述では、ICT活用に関する先進的取組の事例の詳細や手順に関する要望、保健師記録のデジタル化やデータ分析といった具体的なICT活用手法に関する要望、ICT活用を進める上での注意点や必要な配慮に関する要望が挙げられた。これらの要望は、各保健師が所属する自治体や部署におけるICT活用の進捗状況や今後の計画によって、大きく異なることが予測される。したがって、今後の研修においては、事前の打ち合わせ等の機会を通じて、研修対象となる自治体や部署の状況やニーズを適切に把握した上で、それぞれの状況に即した具体的な情報提供や提案を盛り込むことにより、これらの要望に対応できる可能性があると考えられる。

3. 本研究の限界

本研究は、研修プログラムの開発およびその有用性の検討にとどまり、作成した研修プログラムの効果検証には至っていない。また、本研修の対象自治体は4自治体と限定されており、一般化は困難である。当研究班では、本研修プログラムの効果検証にむけ、プログラム・アウトカムとなり得る指標の開発に着手している⁷⁾。今後は開発した指標を用いた実験的デザインによる効果検証の実施に加え、対象自治体の拡大を図ることが課題である。

E. 結論

本研究では、保健師活動におけるICTの活用にもつた教育プログラム「保健師のICTおよびマネジメントスキル向上プログラム」を作成の上、自治体保健師を対象に試行し、一定の有用性を確認でき、今後の改善点を明らかにすることができた。今後は、研修プログラムの効果検証や対象自治体の拡大が課題である。

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 赤塚永貴, 田口敦子, 吉田知可, 宮川祥子, 杉山大典. 保健師活動におけるICT活用およびデジタル化の実態と課題: 地方自治体の統括保健師を対象とした全国調査. 日本公衆衛生雑誌, 2025. (in press)
- 2) 赤塚永貴, 佐野葵, 和田涼花, 宮川祥子, 杉山大典, 田口敦子. 保健師活動におけるICT活用の促進要因・阻害要因: 文献レビュー. 日本臨床知識学会誌, vol. 5, p. 66-68, 2024.

- 3) 和田涼花, 大澤まどか, 赤塚永貴, 石川志麻, 平野優子, 村嶋幸代, 田口敦子. 母子保健記録における電子システム活用の効果と課題: 行政保健師に対するインタビュー調査. 日本臨床知識学会誌, vol. 5, p. 63-65, 2024.

2. 学会発表

- 1) 杉山大典, 赤塚永貴, 宮川祥子, 田口敦子. 保健師活動のICT活用・デジタル化研究(第1報) 地方自治体の実態と課題: 全国調査. 第83回日本公衆衛生学会総会, 2024年10月.
- 2) 赤塚永貴, 杉山大典, 宮川祥子, 田口敦子. 保健師活動のICT活用・デジタル化研究(第2報) 母子保健活動の実態: 全国調査. 第83回日本公衆衛生学会総会, 2024年10月.

3. シンポジウム・ワークショップ

- 1) 自由集会「DX時代の保健師に求められる人材育成とは?」. 第83回日本公衆衛生学会総会, 2024年10月.

4. 寄稿

- 1) 赤塚永貴. デジタルヘルスを活用する力. 連載「地域看護に活用できるインデックス」. 日本地域看護学会誌, vol. 28, no. 1, p. 69-73, 2025.

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
該当なし
2. 実用新案登録
該当なし
3. その他
該当なし

参考文献

- 1) 厚生労働科学研究(健康安全・健康危機管理対策総合研究事業)「ICT活用による保健師活動評価手法の開発及びPDCAサイクル推進に資する研究」HP(デジ・ホケ). 行政保健師におけるICT活用・デジタル化の実態に関する全国調査報告書(全体版).

<https://keio-comnurse.jp/wp-content/uploads/2024/07/r02.pdf>
(2025年5月30日閲覧可能)

- 2) Royal college of nursing. Improving Digital Literacy. 2017. <https://www.rcn.org.uk/-/media/royal-college-of-nursing/documents/clinical-topics/improving-digital-literacy.pdf?la=en&hash=7C7B84357CCC3F1EAA3297442C6103A5519CCA3F>
(2025年5月30日閲覧可能)
- 3) Longhini J, Rossettini G, Palase A. Digital Health Competencies Among Health Care Professionals: Systematic Review. J Med Internet Res, vol. 24, no. 8, e36414, 2022.
(2025年5月30日閲覧可能)
- 4) 赤塚永貴, 佐野葵, 和田涼花, 宮川祥子, 杉山大典, 田口敦子: 保健師活動におけるICT活用の促進要因・阻害要因: 文献レビュー. 日本臨床知識学会, vol. 5, p. 66-68, 2024.
- 5) Eiki Akatsuka, Aoi Sano, Suzuka Wada, Atsuko Taguchi. Information and Communication Technology (ICT) in public health nursing practice: A review of the literature. 26th East Asian Forum of Nursing Scholar. March 2023.
- 6) 厚生労働科学研究(健康安全・健康危機管理対策総合研究事業)「ICT活用による保健師活動評価手法の開発及びPDCAサイクル推進に資する研究」HP(デジ・ホケ). 保健師活動におけるデジタル化・ICT活用事例報告書. <https://keio-comnurse.jp/wp-content/uploads/2024/07/r01.pdf>
(2025年5月30日閲覧可能)
- 7) 赤塚永貴, 杉山大典, 宮川祥子, 大澤まどか, 田口敦子. 行政保健師のデジタルヘルス・コンピテンシー尺度の開発ー暫定版尺度の作成プロセスー. オーガナイズドセッション「保健師DX」. 第8回臨床知識学会学術集会. 2023.

(図表)

表1. プログラム・コンテンツ

流れ	テーマ	コンテンツ
導入	I. 研修の趣旨・目的	【講義】研修の趣旨・目的 ・自治体からの依頼に応じて調整
	II. ICT 活用の基礎知識	【講義】DX・ICT 活用の基礎知識
	III. 行政 DX の動向	【講義】行政・自治体 DX における ICT 活用推進 ① 行政保健サービスにおける DX・ICT 活用の動向 ② 2023 年度保健師活動における ICT 活用・デジタル化に関する全国調査結果
展開	IV. 保健師活動における ICT 活用	【講義】保健師活動における ICT 活用先駆的事例から学ぼう！ ・2023 年先進的自治体へのヒアリング調査結果 ① 保健師活動 DX モデル ② 先駆的事例 (i) 保健師記録のデジタル化：愛知県一宮市、(ii) 住民サービスへの ICT 活用：横浜市、(iii) 業務改善への ICT 活用：静岡県島田市
	V. 保健師活動に ICT を活用するアイデアを考えよう	【グループワーク】保健師活動への ICT 活用に向けたアイデアを考えよう ・As is/ To be 分析（ギャップ分析）による課題の明確化及び課題に 対するソリューション（解決策）の検討
まとめ	VI. まとめ	【講義】まとめ 保健師の専門性発揮に ICT の活用が不可欠であることを強調

表2. アンケート回答者の基本属性

	n	%
年齢(n=237)		
20代	65	27.4
30代	55	23.2
40代	75	31.6
50代	39	16.5
60代	3	1.3
職種(n=237)		
保健師	234	98.7
栄養士	1	0.4
その他	2	0.8
職位(n=234)		
主事級	92	39.3
主任級	67	28.6
係長級	46	19.7
課長級	10	4.3
その他	19	8.1

表3. 研修プログラムの満足度・役立ち度

	n	%
【満足度】(n=237)		
満足である	126	53.2
まあ満足である	92	38.8
どちらともいえない	16	6.8
あまり満足ではない	3	1.3
満足でない	0	0.0
【役立ち度】(n=236)		
役立つと思う	123	49.8
まあ役立つと思う	96	44.4
どちらともいえない	16	4.7
あまり役立たないと思う	1	0.7
役立たないと思う	0	0.0

表4. 「研修で特に役立つと思う内容」に関する自由記述（抜粋）

ICT や DX に関する知識の習得

基本から学ぶことができて良かった。

苦手意識があったが、ICT を活用するメリットを知ることができ、興味がわいた。

保健師活動に ICT を活用する意義の理解

“専門性発揮”という視点から、ICT 活用を考えるきっかけになった

課題を解決するために ICT の活用を検討するという考え方になれた

ICT ありきではなく、保健師が仕事をしやすくしていくことが必要と思った

DX 化は時代の波だと思うため、うまく活用すれば、業務の効率化が図れると知ることができた

苦手意識を持ってしまうがちだが、自分たちの活動をよくするためにという視点で考えたらよいとわかった

ICT 活用の先駆的取組への理解

他自治体の取り組みから、ICT 活用の具体的な工夫・方法を知ることが出来た。

成功した先駆的事例について学べたことがとても役に立つと思う

具体的な事例を知ること、業務に ICT を活用するイメージができた

ICT 活用を進める上での課題の理解

ICT 活用に積極的な職場とそうでない職場の差が大きいことを感じた

何が ICT 活用の足かせとなっているのか、推進させているのかを可視化できて良かった

ICT 活用は、保健師だけでは難しく、庁内の協力体制が不可欠だと思った

表5. 「研修への要望」に関する自由記述（抜粋）

ICT 活用に関する先進的取組の事例に関する内容

好事例の取組の詳細について教えてほしい

保健師が先進的取組にどのように関与したかを知りたい

ICT 活用推進の具体的な手順や方法に関する内容

ICT 活用を進める上で、財政にどのように理解してもらったのか知りたい

ICT の活用を進めるために、具体的に何をすればいいのか知りたかった

先進的事例の具体的な導入方法や予算なども含めて説明があるとよかった

ICT 活用を推進する上での注意点・必要な配慮に関する内容

DX 化に向けた注意点について詳しく知りたかった

デジタルに疎い層をフォローするための視点や対策も知りたい

セキュリティの問題にどう対応していくか知りたい

保健師記録のデジタル化に関する内容

即時記録を取り入れるための工夫や助言が聞きたい

デジタル記録における標準化の必要性や意義を知りたい

データ分析に関する内容

データの分析方法やデータ活用について知りたい

データ分析を見据えた業務の行い方について学びたい
